



平成27年 岐阜県鉱工業指数(年報)

【平成22年基準】

1 概況

生産指数	97.8	前年比0.8%の上昇
出荷指数	96.6	前年比0.6%の低下
在庫指数	133.7	前年比7.3%の上昇

平成27年1年間の生産指数は、化学工業等が低下したものの、輸送機械工業、電気機械工業等が上昇したため、前年比0.8%の上昇となった。

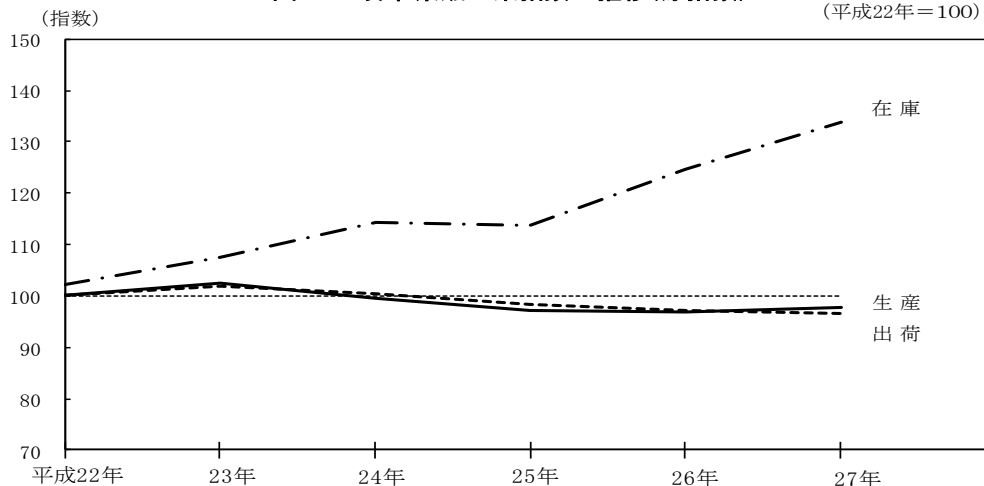
また、出荷指数は、化学工業、はん用・生産用・業務用等が低下したため0.6%の低下となり、在庫指数は、金属製品工業、プラスチック製品工業等が上昇したため7.3%の上昇となった。(図-1)

(平成22年=100)

区分	生産		出荷		在庫	
	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)
平成22年	100.0	16.6	100.0	16.8	102.1	△ 0.4
23	102.6	2.6	101.8	1.8	107.5	5.3
24	99.5	△ 3.0	100.3	△ 1.5	114.4	6.4
25	97.2	△ 2.3	98.2	△ 2.1	113.8	△ 0.5
26	97.0	△ 0.2	97.2	△ 1.0	124.6	9.5
27	97.8	0.8	96.6	△ 0.6	133.7	7.3

図-1 岐阜県鉱工業指数の推移(原指数)

(平成22年=100)



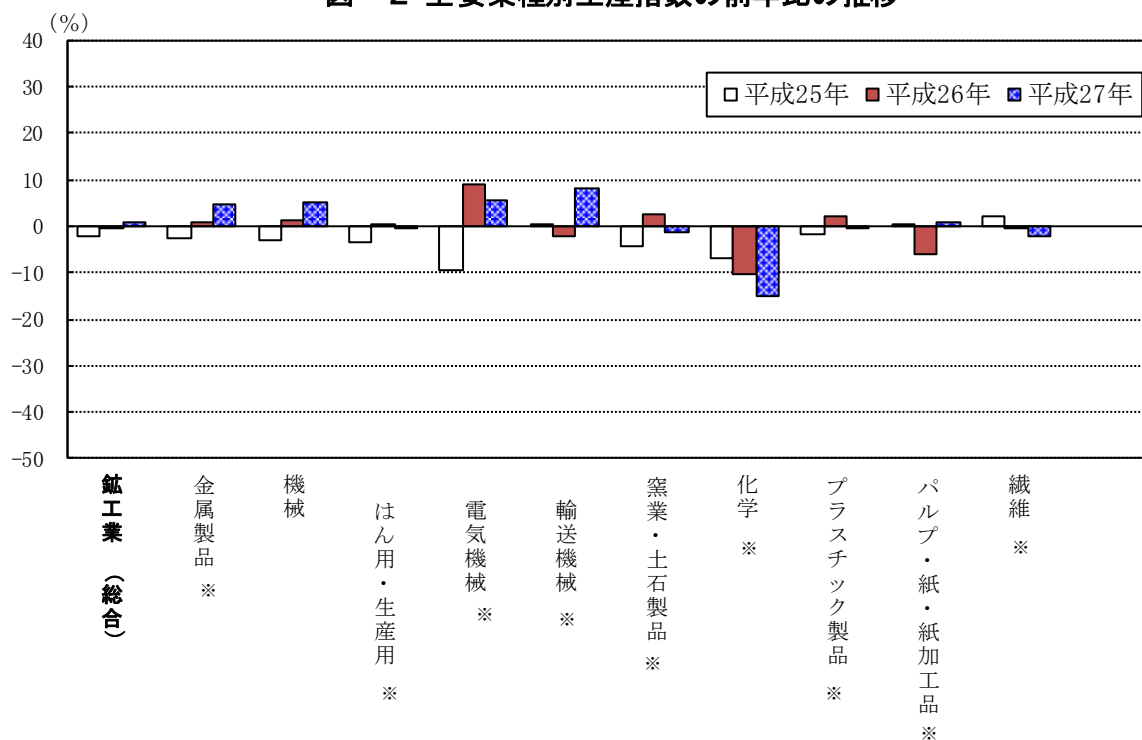
注：年指数の値は、生産及び出荷指数は月指数の平均値、在庫指数は年末値による。

2 主要業種別生産指数の前年比

主要9業種*の生産指数を業種別に前年と比べると、上昇したのは、輸送機械工業（前年比8.1%）、電気機械工業（同5.4%）、金属製品工業（同4.7%）、パルプ・紙・紙加工品工業（同0.6%）の4業種となった。

一方、低下したのは、化学工業（同△15.2%）、繊維工業（同△2.3%）、窯業・土石製品工業（同△1.5%）、はん用・生産用・業務用機械器具（同△0.4%）、プラスチック製品工業（同△0.2%）の5業種となった。（図-2、表-1）

図-2 主要業種別生産指数の前年比の推移



3 全国、中部との生産指数の比較

平成27年の全国における生産指数は、前年比1.2%の低下であった。
また、中部においては0.1%の低下であった。

(平成22年=100)

区分	岐阜県		全国		中部 (※)	
	生産指数	前年比 (%)	生産指数	前年比 (%)	生産指数	前年比 (%)
平成22年	100.0	16.6	100.0	15.6	100.0	22.4
23	102.6	2.6	97.2	△ 2.8	96.8	△ 3.2
24	99.5	△ 3.0	97.8	0.6	104.6	8.1
25	97.2	△ 2.3	97.0	△ 0.8	106.5	1.8
26	97.0	△ 0.2	99.0	2.1	111.8	5.0
27	97.8	0.8	97.8	△ 1.2	111.7	△ 0.1

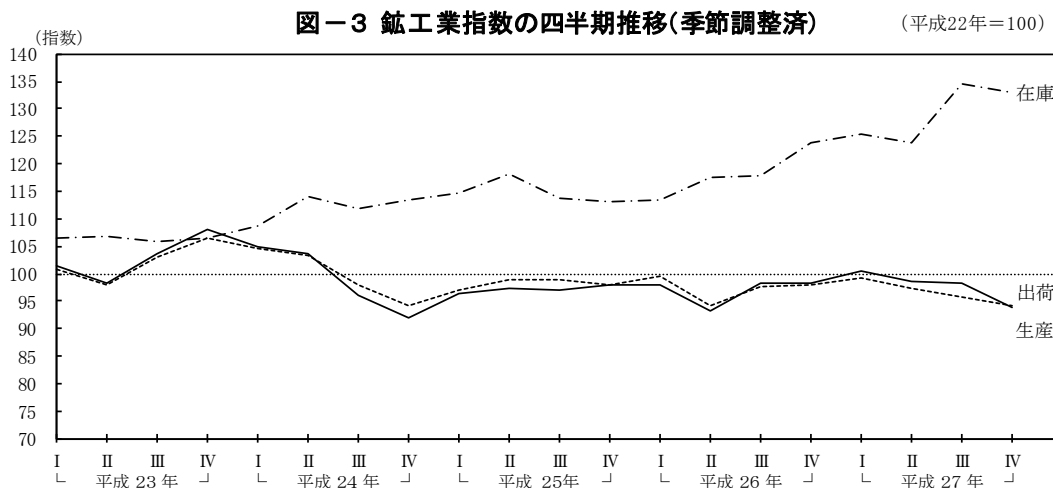
※「中部」とは、中部経済産業局管内5県（愛知、三重、石川、富山、岐阜）

※資料：経済産業省、中部経済産業局

<平成27年 岐阜県鋳工業指数の詳細について>

1 鋳工業指数の四半期推移

平成27年の生産指数を四半期ごとにみると、第1四半期は前期比2.1%の上昇、第2期は1.9%の低下、第3期は0.3%の低下、第4期は4.6%の低下となった。出荷指数も同様の動きとなった。また、在庫指数は上昇と低下を繰り返した。(図-3、表-2)

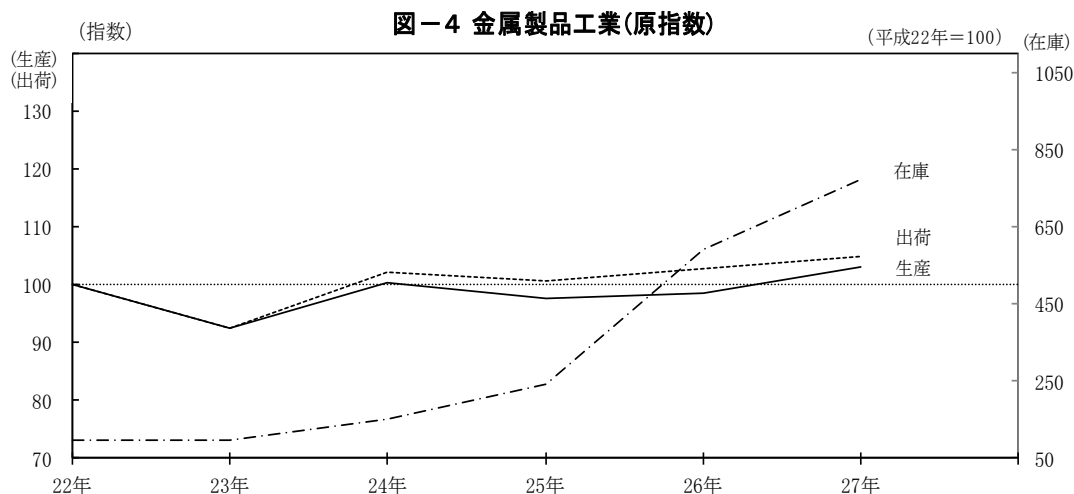


2 主要業種別指数の動向

(1) 金属製品工業

- ・ 生産指数は、ボルト・ナット、ばね等が減少したものの、アルミサッシ等が増加したため、前年比4.7%の上昇となった。
- ・ 出荷指数は、アルミサッシ等が増加したため、前年比2.1%の上昇となった。
- ・ 在庫指数は、アルミサッシ等が増加したため、前年比30.2%の上昇となった。

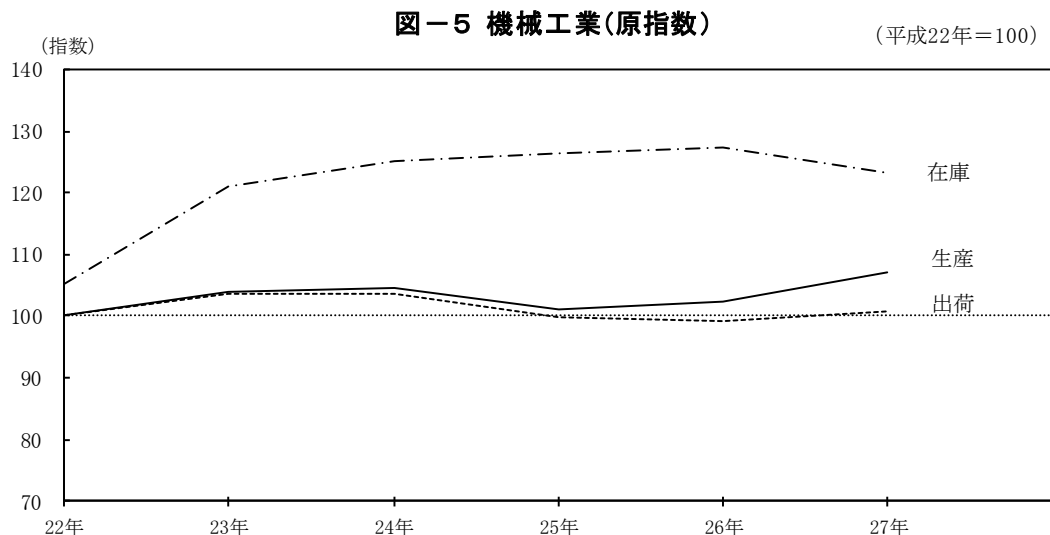
(図-4、表-1)



(2) 機械工業

- ・ 生産指数は、はん用・生産用・業務用機械器具工業が低下したものの、輸送機械工業、電気機械工業が増加したため、前年比4.8%の上昇となった。
- ・ 出荷指数は、前年比1.6%の上昇となった。
- ・ 在庫指数は、前年比3.1%の低下となった。

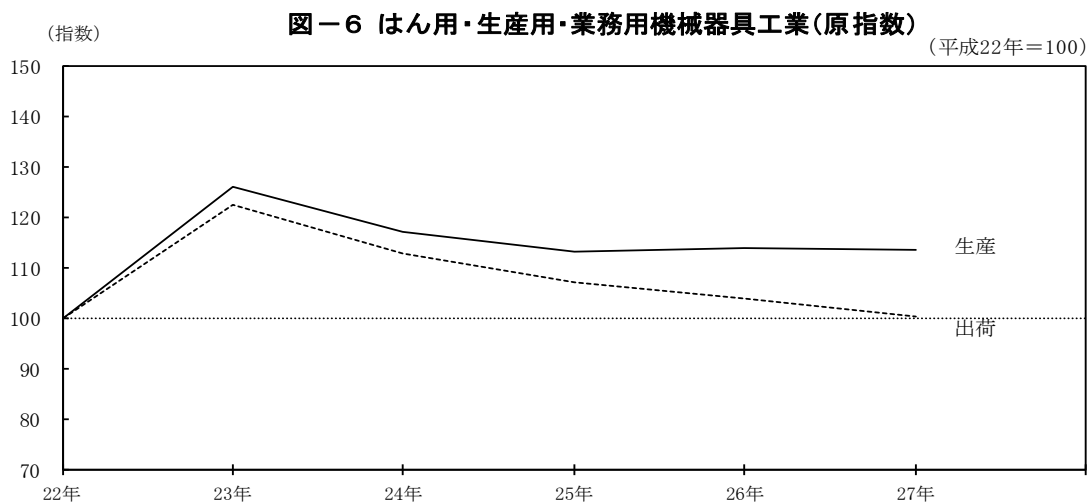
(図-5、表-1)



(2) -ア はん用・生産用・業務用機械器具工業

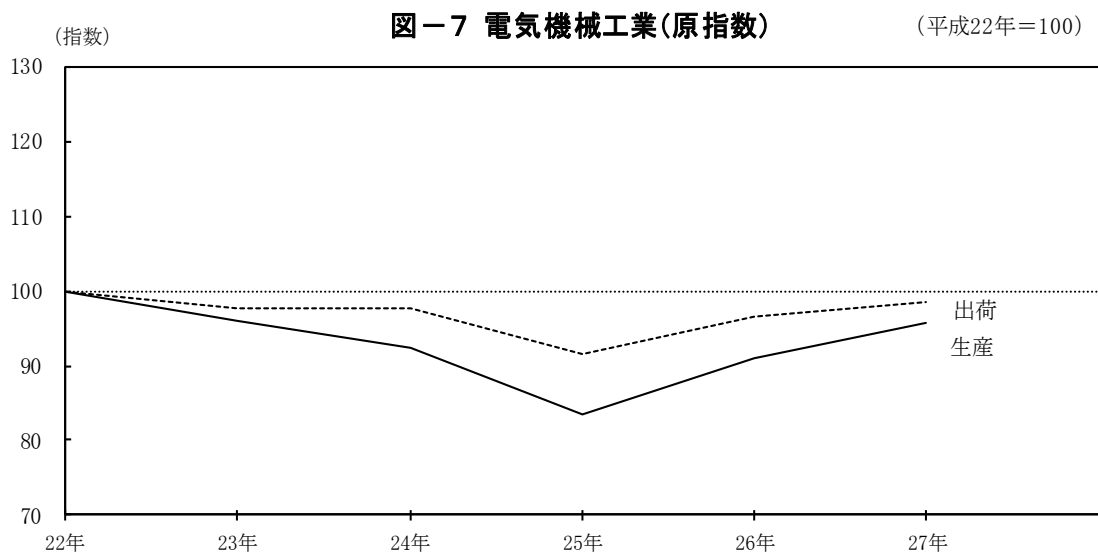
- ・ 生産指数は、金型等が増加したものの、油圧機器、給排水栓類（器洗浄弁・ボールタップを含む）等が減少したため、前年比0.4%の低下となった。
- ・ 出荷指数は、油圧機器、給排水栓類（器洗浄弁・ボールタップを含む）等が減少したため、前年比3.5%の低下となった。

(図-6、表-1)



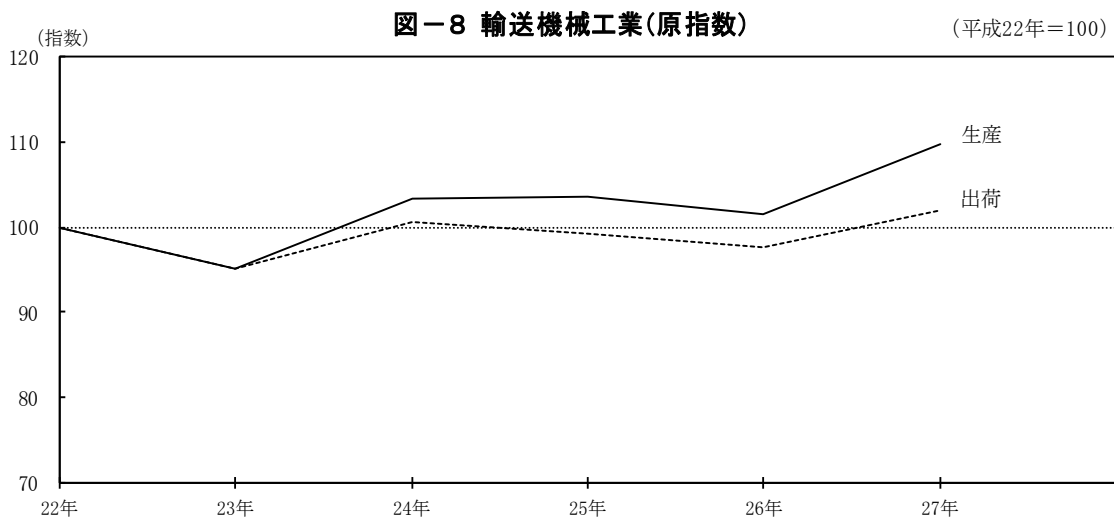
(2) ーイ 電気機械工業

- ・ 生産指数は、電子回路基板、換気扇等が増加したため、前年比5.4%の上昇となった。
 - ・ 出荷指数は、電子回路基板、開閉制御装置等が増加したため、前年比2.0%の上昇となった。
- (図-7、表-1)



(2) ーウ 輸送機械工業

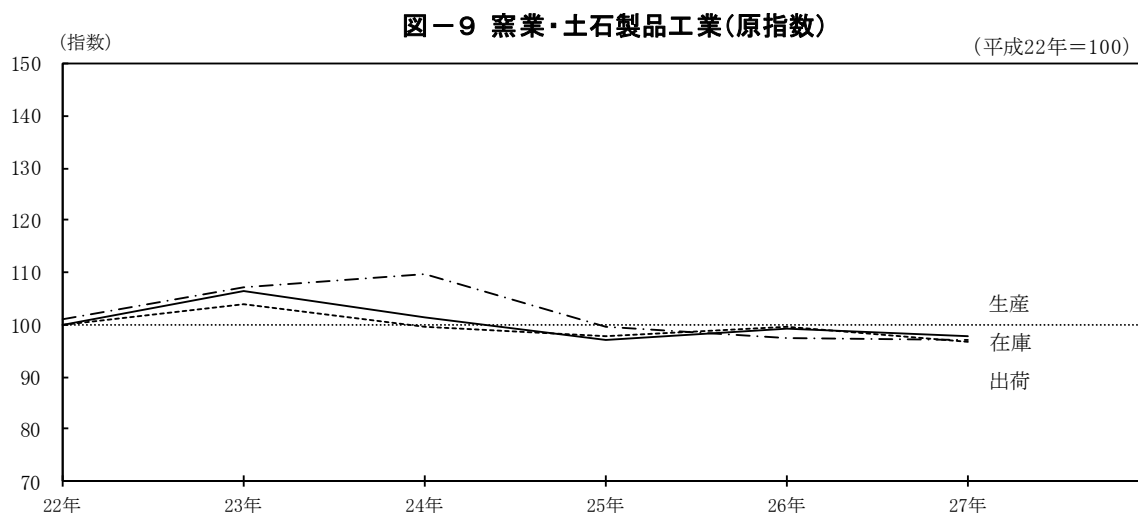
- ・ 生産指数は、ステアリング装置、懸架制動装置部品（ショックアブソーバ）等が減少したものの、乗用車ボデー等が増加したため、前年比8.1%の上昇となった。
 - ・ 出荷指数は、乗用車ボデーが増加したため、前年比4.5%の上昇となった。
- (図-8、表-1)



(3) 窯業・土石製品工業

- ・ 生産指数は、触媒担体・セラミックフィルタ等が増加したものの、生石灰等が減少したため、前年比1.5%の低下となった。
- ・ 出荷指数は、生石灰等が減少したため、前年比2.9%の低下となった。
- ・ 在庫指数は、耐火れんが(不定形耐火物を除く)等が減少したため、前年比0.3%の低下となった。

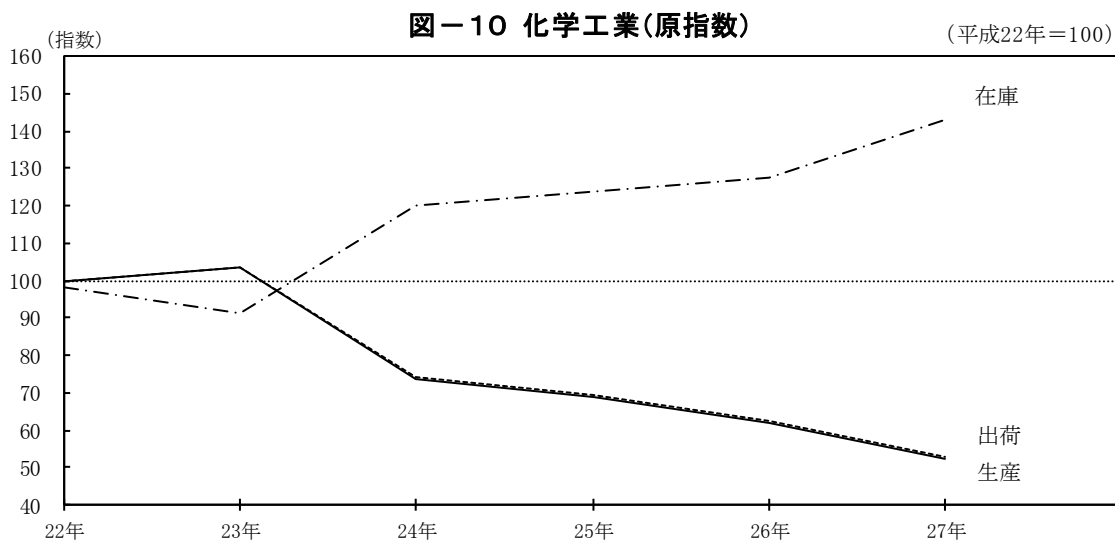
(図-9、表-1)



(4) 化学工業

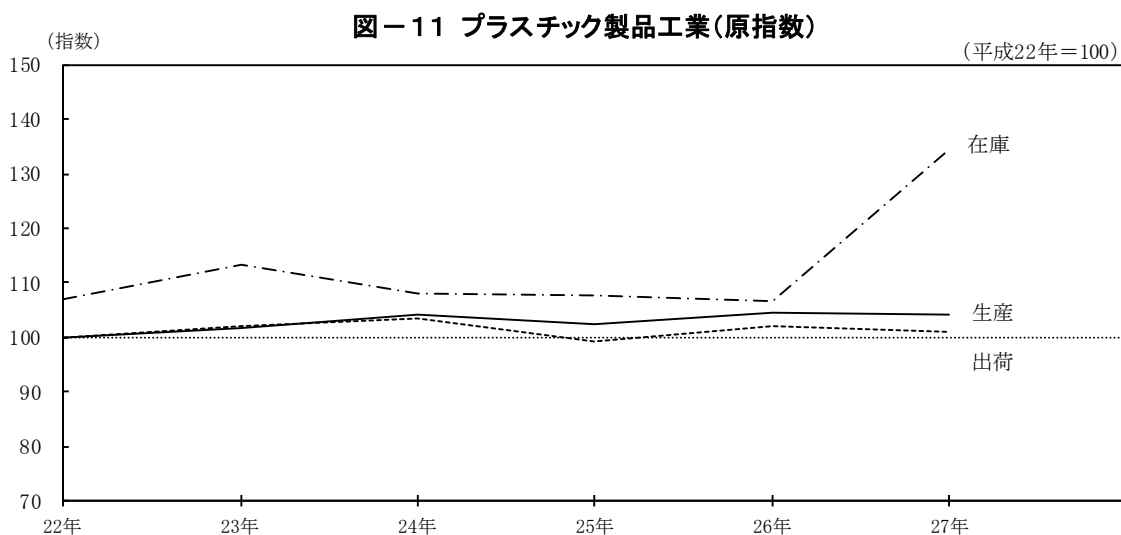
- ・ 生産指数は、メラミン樹脂が増加したものの、医薬品、触媒(自動車排気ガス浄化用)、活性炭が減少したため、前年比15.2%の低下となった。
- ・ 出荷指数は、医薬品、触媒(自動車排気ガス浄化用)、活性炭が減少したため、前年比14.9%の低下となった
- ・ 在庫指数は、触媒(自動車排気ガス浄化用)、メラミン樹脂、活性炭が増加したため、前年比12.0%の上昇となった。

(図-10、表-1)



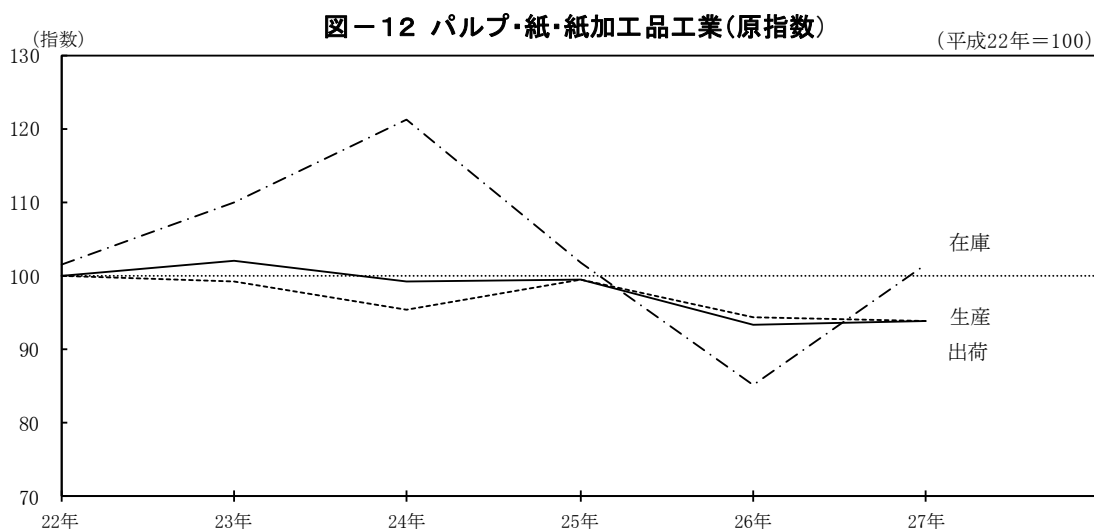
(5) プラスチック製品工業

- ・ 生産指数は、プラスチック製機械器具部品、プラスチック製容器等が増加したものの、パイプ、発泡プラスチック製品等が減少したため、前年比0.2%の低下となった。
 - ・ 出荷指数は、日用品・雑貨プラスチック製品、プラスチック製容器手等が減少したため、前年比1.8%の低下となった。
 - ・ 在庫指数は、プラスチック製フィルム、日用品・雑貨プラスチック製品が増加したため、前年比25.9%の上昇となった。
- (図-11、表-1)



(6) パルプ・紙・紙加工品工業

- ・ 生産指数は、段ボール原紙等が減少したものの、製紙パルプ、衛生用紙等が増加したため、前年比0.6%の上昇となった。
 - ・ 出荷指数は、包装用紙、段ボール原紙等が減少したため、前年比0.5%の低下となった
 - ・ 在庫指数は、情報用紙、特殊印刷用紙等が増加したため、前年比19.4%の上昇となった。
- (図-12、表-1)



(7) 繊維工業

- ・ 生産指数は、毛糸、合成繊維糸等が増加したものの、ニット生地染色整理、綿糸（コンデンサー糸を含む）等が減少したため、前年比2.3%の低下となった。
- ・ 出荷指数は、ニット生地染色整理、敷物タフテッドカーペット等が減少したため、前年比2.5%の低下となった。
- ・ 在庫指数は、毛織物、敷物タフテッドカーペット等が減少したため、前年比14.5%の低下となった。

(図-13、表-1)

